

デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 10 月 6 日(火) 発行:ていネコの投資ノート

【速報版】本稿は 2026 年 10 月 6 日 17 時 30 分(日本時間)時点で取得できた情報に基づく速報版です。株価指数・業種別・寄与度は大引け値(確定)ですが、東証プライムの全日売買代金は配信ベースの概算値、国債利回りは業者気配値、香港ハンセン指数の終値および米国債 6 日終値は未取得(「—」表記)です。確報との差異が生じる可能性があります。

1. 本日のサマリー

- 日経平均は 737 円 12 銭高の 7 万 0,683 円 98 銭と 2 日続伸し、終値で約 3 カ月ぶりに 7 万円の大台を回復した。TOPIX も 38.34 ポイント高の 4,183.56 と 2 日続伸。寄り付き直後は 6 万 9,813 円まで沈んだが、後場に上げ幅を広げ高値 7 万 0,798 円まで買われた。
- 主因は前日の米ハイテク株高。米 9 月 ISM 非製造業景況指数が 54.9 と予想(55.0)を下回り早期利上げ観測が後退、ナスダックが 1.05%上昇した流れを引き継いだ。ドル円が 158 円台へ水準を切り上げ、輸出関連を押し上げたことも効いた。
- 物色は半導体・AI を軸にしつつ、長期金利の高止まりを追い風とする銀行・保険・証券、資源高を映す非鉄金属・鉄鋼へも波及。値上がり銘柄は 74.2%、33 業種中 30 業種が上昇と裾野は広がった。
- 一方、東証プライムの売買代金は 7 兆 3,048 億円と 9 月 30 日以降 4 営業日連続で減少し、直近 1 カ月平均の約 8 兆 2,000 億円を下回った。10 年債入札は表面利率 3.1%と約 30 年ぶりの高クーポンで需要を集めたが、長期金利は 3.087%の高水準が続く。

2. 主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均株価	70,683.98 円	+737.12 (+1.05%)	2 日続伸。終値で約 3 カ月ぶり 7 万円台
TOPIX	4,183.56	+38.34 (+0.92%)	2 日続伸
プライム売買代金	7 兆 3,048 億円	—	売買高 21 億 3,700 万株(概算値)
新発 10 年国債利回り	3.087 %	+0.023 %pt	業者気配。約 30 年ぶりの高水準圏
長期国債先物 12 月限	124 円 25 銭	-25 銭	寄付 124 円 31 銭
ドル円(15 時)	158.07 円	円安方向	東京レンジ 157.77~158.24 円
ユーロ円(15 時)	177.25 円	円安方向	東京レンジ 177.03~177.49 円
米 10 年債利回り	5.30 %	—	6 日東京時間の気配。52 週高値圏
WTI 原油 11 月限	88.41 ドル	-1.02 (-1.14%)	6 日 16 時 10 分時点。G7 備蓄放出
NY ダウ(5 日)	51,267.90 ドル	+90.94 (+0.18%)	—
ナスダック総合(5 日)	27,477.31	+286.45 (+1.05%)	SOX 指数は 13,172.74(+0.27%)

3. 株式市場

寄り付きの軟調から後場に上げ幅拡大

始値は 6 万 9,954 円 61 銭(前日比 7 円 75 銭高)とほぼ横ばいで始まり、直後に 6 万 9,813 円 16 銭まで下げてマイナス圏に沈んだ。前日に 1,637 円高と急騰した後で、7 万円の台を前に利益確定売りが出やすい地合いだった。しかし売りは続かず前場は底堅さを維持、前引けは 7 万 0,081 円(134 円高)。後場は円安基調とアジア株の堅調を確認して買いが厚みを増し、引け間際に高値 7 万 0,798 円 62 銭をつけた。日中値幅は約 985 円で、方向感は一貫して上向きだった。

半導体が主役、ただし内部では明暗が分かれた

アドバンテストが 4.0%高の 4 万 1,900 円と上場来高値を連日で更新し、相場の牽引役となった。前日に米ゴールドマン・サックスが TSMC の目標株価を引き上げ、鴻海精密の 7~9 月売上高が前年同期比 47%増と市場予想を大きく上回ったことで、AI 向けデスターの需要期待が一段と強まった。TDK、フジクラ、太陽誘電、東京エレクトロン、イビデン、信越化学、ディスコも買われた。一方でソフトバンクグループ、キオクシアホールディングス、KOKUSAI ELECTRIC は下落し、同じ AI・半導体の括りでも資金は選別的だった。

金利高を好感する金融株、唯一沈んだ情報・通信

業種別では非鉄金属が 3.34%高で首位、精密機器 2.63%高、銀行業 1.96%高、保険業 1.80%高、鉄鋼 1.74%高が続いた。三菱 UFJ フィナンシャル・グループが 1.6%高の 3,671 円となるなど、長期金利 3%台の定着を利ぎや改善につなげる金融株に資金が向かった。下落は情報・通信業(-0.72%)、建設業(-0.34%)、空運業(-0.30%)の 3 業種のみ。高 PER でディフェンシブ性の強い情報・通信が金利上昇に最も弱いという、教科書どおりの反応だった。個別では壱番屋が 4.5%安、ネクステージが 4.9%安と内需小型の一角が売られた。新興市場は東証グロース 250 指数が 11 ポイント高の 823 と小幅高にとどまり、資金は引き続き主力の大型株に偏っている。

4. 本日の主題：上昇幅の45%はアドバンテスト1銘柄

日経平均+1.05%に対しTOPIXは+0.92%で、乖離自体は0.13ポイントと小さい。だが寄与度の内訳は偏る。アドバンテスト1銘柄で334円41銭、上昇幅737円の45%を稼いだ。TDK(+91円52銭)、ファーストリテイリング(+72円81銭)、フジクラ(+58円45銭)、リクルートHD(+34円38銭)を加えた上位5銘柄で591円、実に80%を説明する。反対側ではソフトバンクグループが163円43銭の押し下げ要因となり、値がさ株同士が綱引きをした格好だ。

それでもTOPIXが0.92%上昇し、値上がり銘柄74.2%、30業種が上昇したのは、今日の相場が「AI一本足」ではなかったことを示す。非鉄金属・鉄鋼という資源関連と、銀行・保険・証券という金利関連が同時に買われ、値がさ半導体とは別の二本目の柱になった。AI関連に資金が集中した前日に比べ、市場の性格はややバリュー・内需を取り込む方向に変わっている。

ただし売買代金は9月30日の9兆1,212億円から4営業日連続で減少し、本日は7兆3,048億円まで縮んだ。指数が上値を追う一方で商いが細るのは、新規の買い手が増えていない兆しである。

5. 債券・金利

新発10年物国債利回りは3.087%(業者気配)と前日の3.064%から小幅上昇し、約30年ぶりの高水準圏で推移した。長期国債先物2026年12月限は124円31銭で寄り付き124円25銭引け、前日比25銭安。年限別は2年1.906%、5年2.369%、20年3.970%、30年は5日時点で4.230%。本日の10年利付国債(第384回)入札は表面利率が年3.1%と1996年8月以来約30年ぶりの高水準に設定され、募入平均利回り3.101%、最高利回り3.103%、応札倍率3.76倍、テール2銭(0.2bp)と良好だった。高クーポンが需要を引き寄せた一方、入札通過後も金利が下がらなかったのは米長期金利の上昇圧力が勝ったためとみられる。米国債は東京時間の気配で2年4.82%、10年5.30%、30年5.66%と、10年・30年は5日につけた52週高値の近辺にある。

6. 為替・商品

ドル円は東京時間を157円77銭~158円24銭で推移し、15時時点は158円07銭。前日終値157円91銭前後からじり高で、米10年債利回りが5.3%台を維持したことがドル買いを支えた。本日高値は植田日銀総裁が全国証券大会で挨拶した15時44分前後につけており、慎重な政策運営の姿勢が改めて意識された可能性がある。もっとも8月に28年ぶりの日米協調円買い介入があった経緯から、158~159円では円安けん制が意識され上値は重い。ユーロ円は177円03銭~177円49銭で15時177円25銭。独仏10年債スプレッドが2日の158bpから136bpへ縮小した。WTI原油11月限は5日に89.35ドル(1.64%安)、6日16時台は88.41ドル。先週末のG7緊急石油備蓄放出で供給懸念が後退した。原油安はインフレ緩和で株式にプラスだが、非鉄・鉄鋼高は資源価格でなくAIデータセンター向け実需を映した動きと読むのが自然だ。

7. 海外市場の動向

5日の米国市場はナスダック総合が1.05%高の27,477.31と上昇が目立ち、S&P500は0.67%高の7,773.95、NYダウは0.18%高の51,267.90。米9月ISM非製造業景況指数が54.9と予想を下回りつつ拡大圏を維持したことで早期利上げへの警戒が和らぎ、AI需要期待からエヌビディアが2.1%高となった。SOX指数は0.27%高の13,172.74で高値圏を維持。6日のアジアは韓国KOSPIが0.89%安の6,941.39と3日ぶりに反落。サムスン電子とSKハイニックスが連休明けの高値をつけた後に利益確定売りを浴びた。台湾加権指数はTSMCの最高値更新で小幅高。香港ハンセン指数は13時台に24,228.47(0.78%高)と堅調だったが終値は未取得、上海総合指数は国慶節で休場し8日に取引を再開する。

8. 直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10年債	売買代金
9/30(水)	66,753.72	+1,272.45	4,108.65	—	9兆1,212億円
10/1(木)	68,956.72	+2,203.00	4,131.98	3.095%	8兆7,228億円
10/2(金)	68,309.46	-647.26	4,091.00	3.090%	8兆2,978億円
10/5(月)	69,946.86	+1,637.40	4,145.22	3.085%	7兆7,509億円
10/6(火)	70,683.98	+737.12	4,183.56	3.087%	7兆3,048億円

9. 総括と注目点

終値での7万円台回復は達成したが、中身は値がさ半導体1銘柄への依存度が高く、商いは4営業日連続で減少した。他方で銀行・保険・非鉄・鉄鋼が加わり物色の裾野は広がった。方向感を決めるのは金利の次の動きだろう。

- 10月7日(水)に9月開催分の米FOMC議事録が公表される。早期利上げ観測の後退が本日までの相場の支えであるため、議事録のタカ派度合いが最大の確認材料。同日は390億ドル規模の米10年債入札も控える。
- 10月8日(木)はECB理事会議事要旨、220億ドル規模の米30年債入札、国内の30年利付国債入札が重なる。超長期ゾーンの需給が崩れれば円債の雰囲気は変わり得る。同日は中国本土市場が国慶節明けで取引を再開する。
- ドル円は158~159円が政府の円安けん制を意識する水準。協調介入への警戒と日米金利差の縮小観測が綱引きする局面で、輸出関連株の追い風が続くかの分岐点となる。

脚注：東証プライムの売買代金・売買高(7兆3,048億円/21億3,700万株)は17時台に取得可能な配信ベースの概算値で、確報と差異が生じ得る。国債利回りは業者気配値。新発10年債の日中高安、30年債の6日引値、長期国債先物の日中高安は未取得または配信データに不整合があり「—」とした。アドバンテストの寄与率45%、上位5銘柄の寄与率80%、10年債入札の応札倍率3.76倍とテール2銭(0.2bp)は公表値に基づく筆者算出。本レポートは生成AIを用いて公開情報を整理・執筆した。

出典：財務省、日本相互証券、フィスコ、マネクリ、株探、みんかぶ、ザイFX!、日本銀行、共同通信。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。記載内容の正確性・完全性について執筆者は責任を負いません。